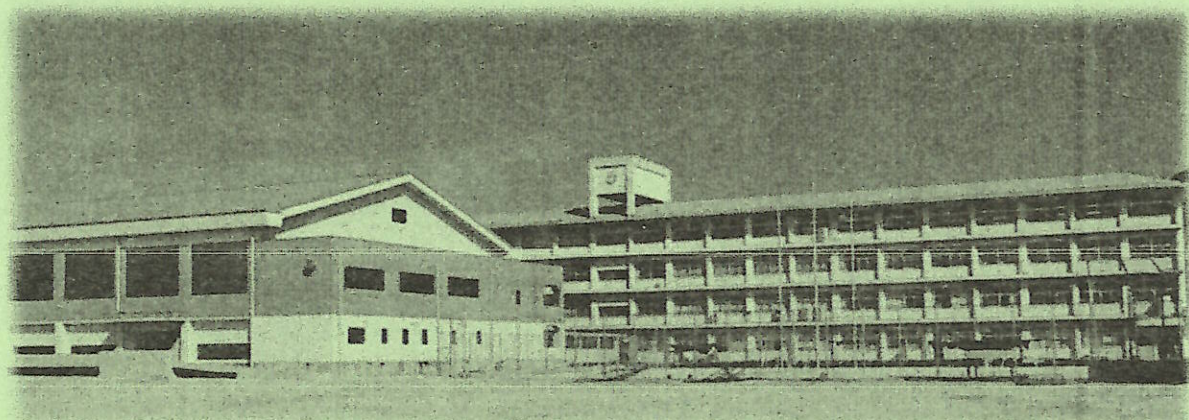


令和元年度 文部科学省指定
令和元・2年度 佐賀県教育委員会指定
道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

道徳教育研究発表会 (2年次)

道徳科学習指導案



学級	内容項目	教材名	授業者
1年2組	C-(12) 社会参画、公共の精神	本が泣いています	教諭 大屋友紀子(T1) 教諭 田中 晋一(T2)
2年3組	B-(6) 思いやり、感謝	愛	教諭 内山 啓子(T1) 教諭 森 茂(T2)
3年2組	C-(10) 遵法精神、公德心	缶コーヒー	教諭 重松 健太(T1) 教諭 井上三智子(T2)

令和2年11月9日(月)
江北町立江北中学校

第 1 学年 2 組 道徳科 学習指導案

生徒数 30名

指導者 T1 教諭 大屋友紀子

T2 教諭 田中 晋一

1 主題名 公共の精神とは 【 C — (12) 社会参画、公共の精神 】

2 教材名 「本が泣いています」 (新しい道徳1 東京書籍)

3 主題の設定理由

○ねらいとする価値について

「公共の精神」とは、社会全体の利益のために尽くす精神である。私たちが過ごしている社会を見渡してみると、「この人がやるべきこと」と明確に決まっていなくても多い。しかし、誰かが率先して、そのことに取り組みないかぎり、先に進まなくなってしまうこともある。いつまでも誰かがしてくれるだろうと、他人任せにしているよりは、よりよい社会の実現はできない。よりよい社会の実現に向けて社会に目を向けたとき、個人の向上と社会の発展とが、矛盾しないような在り方が求められる。個人が政治や社会に関する豊かな知識や判断力、論理的・批判的精神をもって自ら考え、社会に主体的に参画し、公正なルールを形成し、遵守する精神である。

○生徒の実態について

生徒は授業や休み時間を利用して、図書室を使用している。本を借り、読書を楽しんでいる子もいる。町の図書室を利用する子もいる。
アンケートより机やイスをはじめ学校のものを大切に扱っていると答えた生徒は 100%、教室のロッカーをきれいに使っていると答えた生徒は 75%、教室や図書室などで過ごす時には一定のルールやマナーがあると思うと答えた生徒は 100%であった。課題として、教室のロッカーの使い方と教室や図書室でのマナーがあることは分かっているにもかかわらず、ふさわしい言動をとることができていないことが明らかになった。今回の教材を通して、課題の一つとして捉え、自分事として考えさせたい。

○教材について

本教材は、ある市立図書館に司書として勤務する主人公が図書館の本が傷つけられたり、持ち去られたりする問題に苦慮する姿を描いたもので、実話に基づいている。主人公は、本や図書館、ひいては利用者の利益を守るために利用者の行動を監視したり、管理したりしなければならないことに悩んでいる。規制の少ない、より便利で自由な図書館を実現したいと願い、問題解決のために知恵を絞る、行動を起こしている。そのような主人公の思いや行動は、「社会参画の意識」や「社会連帯の自覚」、「公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める態度」の良い例である。身近にある図書館の現状を知り、主人公の思いや行動に考えを巡らすことで、よりよい社会の実現に向けた態度を育むには適した教材である。また、中学生は図書館に限らず、公共の場所やものを利用する機会も増えてくるので発展的に身の回りのさまざまな場面や状況を想定して考えるきっかけにもなる教材である。

○指導について

公共の施設の在り方や利用の仕方について、自らもそれに関わる者の一人であるという自覚をもとにして主体的に考え、行動に移そうとする態度を育ませたい。教材が示す図書館の事例に基づき、図書館の望ましい在り方や利用の仕方について考えることを通して、自分自身も図書館という公共施設に関わる者の一人であるという自覚を高めたい。

導入部分では、生徒にとって身近な公共施設の1つである図書館の話題にふれ、興味を持たせる。また、公共施設である学校での過ごし方についての事前アンケートの結果を示し、自分たちのマナーに対する意識について振り返らせる。

展開部分では、ペア活動で教材の一場面を想定した役割演技を行わせる。演技を通して、主人公(カウンター係)と利用者の立場での互いの気持ちを感じ取らせ、カウンター係も利用者も気まずい思いをしてしまっているということに気づかせたい。そこから、図書館を利用する時に互いに気まずさを残さない態度を考えさせたい。

終末部分では、生徒の身近な公共の場での暗黙の了解のようなルールが存在することに気づかせ、これからの生活に生かしていける態度を育ませたい。

4 本時のねらい

公共の場でとるべき態度を考え理解し、実際の生活でも実践していこうとする態度を育てる。

5 ねらいに迫るための指導の重点

- ① 発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。
- ② 対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

6 展開

過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・) 中心発問(◎)	教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見 つ め る つ か む	<p>0 朝の時間に教科書を範読する。</p> <p>1 アンケートの結果を知る。</p> <p>2 動画を視聴し、教科書の内容を確認する。</p> <p>3 条件に合わせた教師の役割演技を見る。</p> <p>4 教師の役割演技を見て、こころのものさしに自分の立場を示し、かける言葉やその立場を選んだ理由を書く。</p> <p>その後、黒板の心のものさしにネームプレートを貼る。</p>	<p>「教室や図書室などで過ごす時には一定のルールやマナーがあると思う」に対するアンケートの結果を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【条件】 ○「あなたは、借りていた本を返そうとカウンターにやって来ました。その時、借りた本が破れていることに気づきました。(自分が破ったかどうかも分かりません。)あなたなら、本が破れていることを図書館のカウンター係に伝えますか？伝えますか？」</p> </div> <p>◇伝える (その理由は)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実だから、きちんとすべき。 ・疑われるのも嫌だから。 ・次の人のためにも言うべき。 <p>◇伝えない (その理由は)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が破ったわけではないから。 ・ばれないと思ったから。 ・伝える勇気がないから。 	<p>・電子黒板に条件を提示し、T1が図書館のカウンター係、T2が利用者を演じ、実際の場面を想起させる。</p> <p>・自分の立場を発言するのではなく、静かにWSに書き込ませる。</p> <p>・黒板にこころのものさしを示す。</p> <p>・列ごとに黒板に貼りに行くように指示する。</p>
広 げ る ・ 深 め る	<p>5 役割演技をする。 (グループで見せ合う)</p> <p>6 役割演技を見て、それぞれの立場を考える。 (1)利用者が伝える場合</p>	<p>○その時の利用者は、どんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドキドキした。 ・自分が破ったと疑われたかもしれない。 ・気まずさを感じる。 	<p>・机間指導を行い、条件に合わせて演技をしている確認し、ペアを褒める。</p> <p>【問い返しの発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ疑われるかもしれないのに伝えたのだろう。

見 つ め 直 す	<p>(2)利用者もカウンター係も何も言わない場合</p> <p>(3)カウンター係が伝えなかった利用者に「ここが破れていますか・・・」と伝えた場合</p> <p>7 それぞれの立場を踏まえ、気まずさを残さないために、公共の場所や物を利用するとき心がけることを考える。</p> <p>8 教師の話聞く。</p> <p>9 振り返りを行う。</p>	<p>○カウンター係は、伝えられてどんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きちんと伝えてもらってよかった。 ・伝えてもらったので修理ができる。 <p>○その時の利用者は、どんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が破ったわけではないので、伝える必要がない。 ・ばれなければいいだろう。 ・言うのが気まずい。 <p>○その時のカウンター係は、どんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いづらい。 ・相手を疑うことになる。 ・確実に返した人が破ったとは限らないから言わないでおこう。 <p>○利用者は、どんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どきどきとする。 ・疑われてしまい、ショック。 ・破ったのは自分かどうか分からないのに。 <p>○カウンター係は、どんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認しないといけないと思った。 ・疑うことになるけど、仕方がない。 ・本が破れてショック。 <p>◎公共の場所や物を利用するときに、誰もが気持ちよく利用するにはどんなことを心がけたほうがよいか。</p> <p>【利用者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切に使う。 ・壊したり、汚したりしたら正直に言う。 ・ルールを守る。 ・次に使う人のことを考える。 <p>【管理者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに分かりやすいルールを決める。 ・気持ちよく使ってもらえるように、きちんと管理する。 	<p>【問い返しの発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばれなければ、伝えなくてもいいのか。 <p>【補助発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜカウンター係は、「ここ破れていますか・・・」と言ったのだろう。 <p>【補助発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の場所には、どんなものがあるか。 <p>【問い返しの発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両者に共通する思いは、何か。 <p>T1:図書館で勤務した経験から、実際に声をかけることの気まずさについて話をする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">よりよい社会の実現に向けて前向きに考え、生活に生かしていこうとする態度を育む。</p>
-----------------------	---	--	---

本が泣いています

1 年 2 組 ___ 号 氏名 _____

・あなたなら、本が破れていることを伝えますか？伝えませんか？自分の考えの所に●をつけよう。
●をつけたら、理由と伝える言葉を書こう。

伝えない	理由	どんな言葉で伝えますか？	伝える
	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>		


例 利用者として伝えない

図書館員：こんにちは。ご返却ですか。

利用者：はい返却します。ありがとうございました。（心の中で…本が破れている）

図書館員：ありがとうございました。（心の中で、あ、本が破れている…言うべきか）

利用者として 伝える・ 伝えない



・公共の場所や物を利用するときに、誰もが気持ちよく利用するにはどんなことを心がけたほうがよいでしょうか？

第2学年3組 道徳科 学習指導案

生徒数 29名

指導者 T1 教諭 内山 啓子

T2 教諭 森 茂

1 主題名 支え合いの中で 【B—(6) 思いやり、感謝】

2 教材名 「愛」 (新しい道徳 2 東京書籍)

3 主題の設定理由

○ねらいとする価値について

「思いやりの心」は、お互いに弱さや悩みを持つ同じ人間どうしが相手のために自発的に関わろうとする心の在り方であり、「感謝の心」は、他者の思いやりに触れ、それをありがたいと感じ、素直に受け止めた時に起こる人間の自然な感情である。生徒たちは、日々の生活の中で、「思いやりの心」や「感謝の心」を抱くことはある。本時では、生徒たちにとって大切な家族の命に関わる病を通して、本当の「愛」について深く考えさせたい。

思いやりと感謝は、その根底に人間愛の尊重の精神と深い人間理解や他者への共感があることを理解し、ともに助け合い、協力し合って生きていこうとする態度を身につけさせたい。

○生徒の実態について

本学級の生徒は5月に行った道徳アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、人から支えられていることに感謝し、みんなのために自分ができることを考えて行動している」という質問に対し、50%が「よくできている」と答えている。また「家族のことを大切に思い、家族のために役立つことをしている」と答えている生徒は72%を占めた。

中学生の時期は、感謝の心をもって他の人と接することの大切さを理解はしていても、家族や日々接する人に対して、素直に感謝の気持ちを表すことが難しい時期でもある。思いやりの行動や感謝の気持ちを示すことが人を大切にすることにつながることに気づかせたい。

○教材について

「腎不全」という重い病気にかかっている主人公の母に、自らの腎臓を提供してくれた健おじさんの優しさや勇気に触れ、主人公は本当の人間愛に気づき、感謝の気持ちをもって、これからの人生を生きていこうとする。腎臓移植という選択は、母だけでなく、健おじさんにとっても命に関わることであり、今後の家族みんなの生活にも影響する。本学級の生徒は、家族を大切に思っている生徒が多く、自分の家族のこととして考えさせることで、ねらいに迫ることができる。と考える。

健おじさんの人間愛にあふれた生き方に触れることによって、家族やほかの人の支えは決して当たり前のことではなく、感謝の気持ちをもって助け合い、協力しあって生きることの大切さに気づくことができる教材である。

○指導について

本教材の指導にあたっては、腎臓移植という医学的知識の理解も必要で、事前にアンケートを行う中で、臓器移植の説明を行い、本時で生徒が本文の内容を理解しやすいようにした。また、保護者にもアンケートを実施し、親としての気持ちを伝えることで、より身近なこととして考えられるようにした。

導入部分では、事前アンケートをもとに、「臓器移植」に関する生徒の調査結果を紹介し、現段階においての実態を把握させることで、生徒に興味・関心を持たせ、より教材に迫ることができるようにする。

展開部分では、「もし自分が健おじさんの立場なら、腎臓を提供しますか。」の発問で、生徒に葛藤する場面を設定する。ここでは、心のものさしを活用し、自分の考えを理由も含めて可視化する。その後の交流活動では、考えの違う友だちとの旅行学習を行い、他者の様々な考えを知ること、人を思いやる気持ちや行動は人それぞれであることに気付かせたい。また、親の気持ちを紹介することで、中心発問「支え合って生きていくためには、どのような気持ちや考えが必要か」について考える中で、思いやりの根底にある「人間愛の尊重の精神」へと繋げたい。

終末部分では、ドラマの中で臓器提供をしてもらった少女が書いた手紙を紹介し、支え合って生きていくためには、思いやりの気持ちや行動が大切であるという思いを深めたい。

4 本時のねらい

健おじさんの姉の命を大切に思う気持ちや深い愛情をについて考えることを通して、思いやりの根底には人間愛の尊重の精神があることを理解し、ともに助け合い、協力し合って生きていこうとする心情を育てる。

5 ねらいに迫るための指導の重点

- ① 発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。
- ② 対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

6 展開

過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	・教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見 つ め る	1 事前アンケート結果を知る。		・事前にとったアンケート結果を提示する。臓器移植は、人によって、いろんな思いがあることを知る。
つ か む	2 「愛」を読んで話し合う。 ・「健おじさん」の人物像を確認する。	○「腎不全」という病気は、どのようなものだろうか。 ・人工透析(週3回) ・5時間ベッドに寝る ・透析後は、吐いたり、高熱が出たりする ・水分制限・生野菜、果物の制限・食べる量の制限 ○「健ちゃん、ありがとう。その気持ちだけで十分。」と言った母はどのような気持ちだっただろうか。 ・自分にも健おじさんにも家族がいるからわがままは言えない。 ・自分が元気になっても健おじさんが病気になってしまっは意味がない。	・「腎不全」という病気の重さ。辛さに気づかせる。 (腎不全説明：T2) ・母の、弟や弟の家族のことを思いやる気持ちに気づかせる。
広 げ る ・ 深 め る	3 健おじさんの行動から考える。 【書く活動①】 ・心のものさしネームカードを貼る。 【対話活動】 旅行学習 ↓ 全体 ・臓器移植アンケートより親の想いを知る。 ・自分の考えを整理する。	○もし自分が健おじさんの立場なら、腎臓を提供しますか。 【する】 ・自分の腎臓で姉が楽になるなら助けてあげたい。 ・苦しんでいる姉ちゃん家族を支えたい。 【しない】 ・もしものことを考えると、勇気が出ない。 ・妻や子供のことを考えると、体を大切にしたい。	・健おじさんの置かれている状況を確認する。 ・意見をまとめるのではなく、多様な考えがあることに気づかせる。同種の考えも理由には違いがあることを知らせる。 ・対話活動(旅行学習)では、違う考えの人と2往復以上の会話を目標とする。 【話し合いのポイント】の活用
見 つ め 直 す	4 人間愛あふれた生き方について考える。 【書く活動②】 5 感想や交流活動を通して考えたことを、感じたことを振り返りシートにまとめる。	◎ 支え合って生きていくためには、どのような気持ちや考えが必要でしょうか。 ・お互いに弱さや悩みを持つ人間だからこそ、助け合うことが大切である。 ・共に生きる大切な存在である。 ・今、自分がやれることをする。	・これからの自分の生き方や生活に関わる課題意識や自身への問いかけをもてるようにする。 ・臓器提供をしてもらった少女が書いた手紙の映像を流す。 思いやりの行動や、感謝の気持ちを素直に示すことができ、共に助け合い、協力し合おうとする気持ちをもち始めている。

2年()組()号 名前()

1 もし自分が健おじさんの立場なら、腎臓を提供しますか。

しない

する

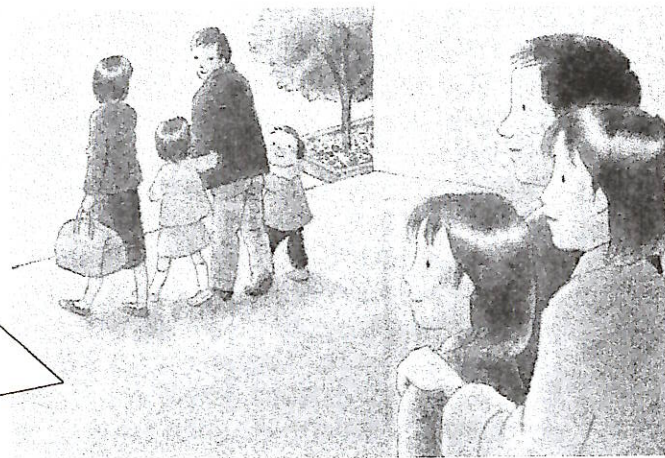


自分の考え

友だちの考え(旅行学習)



2 支え合って生きていくためには、どのような気持ちや考えが必要でしょうか。



第3学年2組道徳科学習指導案

生徒数 37名

指導者 T1 教諭 重松 健太

T2 教諭 井上 三智子

1 主題名 次世代のいない手として 【 C — (10) 遵法精神、公德心 】

2 教材名 「缶コーヒー」 (新しい道徳3 東京書籍)

3 主題の設定理由

○ねらいとする価値について

社会があれば何らかのきまりがある。「法やきまり」は、集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものである。社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されることを理解することは大切であり、それを人々が遵守することによって、一定の秩序が保たれ、我々の安全も保障される。

思春期のこの時期に、自分たちを拘束すると感じる「法やきまり」が自分たちを守るためだけでなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせ、よりよい社会に変えていこうとする意欲や態度を育てることは大変意義深いと考える。

○生徒の実態について

本学級生徒の5月に行ったi-checkの結果から、「学校の規則やクラスの決めごとを守っている」の数値は90.3であった。これは全国値の84.6と比べると高く、「きまりを守ること」への意識は非常に高いことが分かる。学校生活のようすからも、多くの生徒がきまりは守らなければならないという意識をもち、行動することができている。しかし、相互が個人の都合を主張することで、どちらにとってもよりよい結果を得ることができない場面も時折見受けられる。缶コーヒーをめぐる役割演技を通して、責任を他人だけに押しついたり、自分だけでかかえこんだりすることなく、みんなが安心して過ごせる社会を築こうとする態度を育てていきたい。

○教材について

電車の中で起こった出来事を通して、登場人物それぞれに何かしらの「落ち度」が設けられた教材である。生徒の多くは、この教材に登場する「私」や「女性」のそれぞれの立場に似たことを体験したことがあると思われる。被害者の「私」のように不愉快に思っているでもその思いを強く言うことができない、あるいは加害者の「女性」のように自分勝手な振る舞いをして他人に迷惑をかけていることに気づいていないことがあるかもしれない。この教材を用いることで、そのような経験を思い起こすだけでなく、主人公の立場に立った場合に当事者全員が安心して過ごすためにはどうすればよかったのか考えさせ、生徒に共感と想像を促すことで多面的・多角的な思考が可能になる教材と考える。

○指導について

本教材の指導にあたっては、これから社会に出て行く生徒たちにとって、身近なモラルやマナーについての考えを深めさせたい。そこで本授業では、電車内の出来事における「被害者」「加害者」に視点を置いて、本日のテーマ「みんなが安心して過ごせる社会」についてじっくり考える機会としたい。

導入部分では、電車や駅のイラストを電子黒板に提示し、どのような行為がマナー違反にあたるのかを発表させる。このときに、「その行為によって、周りの人たちはどう思うか?」や「マナーが良くない人ばかりの世の中になったらどうなるか?」などを問いかけることにより、「みんなが安心して過ごせる社会」へと繋げたい。

展開部分では、登場人物の状況や心情を分かりやすくするためイラストなどを使いながら、マナー違反における「加害者」「被害者」としての問題点を気づかせる。さらに、主人公の「私」のスカートがよごれたときのお互いの気持ちについて考えさせていくことで、それぞれの立場に立ったときに、自分ならどのような行動を取るかを考えさせ、自分自身と向き合わせる。次に、代表生徒で役割演技を行うことで、その役を通して「どんな気持ちになったか?」「なぜその行動を取ったのか?」を尋ねることで、自分の考えとの共通点や相違点に触れることができる。この時に「被害者」の意見として、「加害者」を注意するなどの意見が出ると予想される。相手を強く責めるばかりでは問題が解決しないことにも目を向けさせるために、注意をされた側の気持ちを考える問い返しの発問を行う。中心発問では、「加害者」「被害者」それぞれの視点から考えさせることで、「みんなが安心して過ごせる社会」について、多面的・多角的に深められるようにする。

終末部分では、これからの日常生活で意識して生活していきたいことを記述させることで、自分の都合だけを優先せず、他者に配慮し、公德心をもつことが、みんなが安心して過ごせる社会を実現する上で大切なことであることへの理解を深めさせたい。

4 本時のねらい

登場人物の言動を通して、自分が社会の一員であることを自覚し、互いに積極的に関わろうとする中で、みんなが安心して過ごせる社会をつくろうとする心情を育てる。

5 ねらいに迫るための指導の重点

- ① 発問の構成は、主題に迫るものになっていたか。
- ② 対話活動において、教師の手立ては適切であったか。

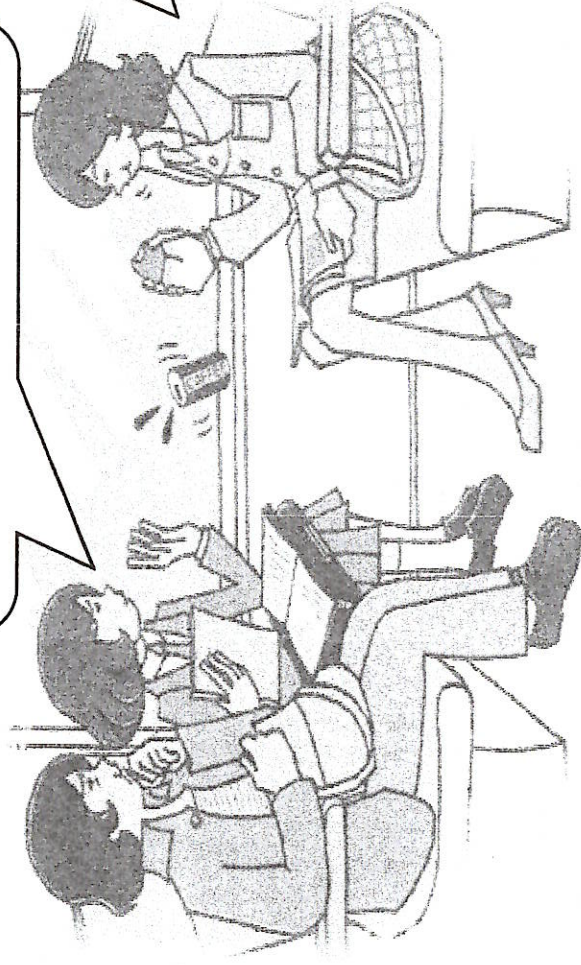
6 展開

過程	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・) 中心発問(◎)	教師の働きかけ 期待される生徒の姿
見 つ め る	1 自分勝手な振る舞いについて考える。	○マナーが良くないものにはどのようなものがありますか。 ・電車の中で音楽を聴いている。 ・ホームに座っている。	・電子黒板にイラストを掲示し、マナー違反にあたる行為を発表させる。 ・マナーが良くない人ばかりの世の中になったらどうなるか考えさせる。
	2 「缶コーヒー」を読んで、登場人物の気持ちを考える。 (P87の4行目まで)	○「私」のスカートがよごれたとき、「私」と「女性」はどんな気持ちになっただろう。 【私】・だから言ったのに…。 【女性】・電車が揺れたから仕方がない。	・イラストを利用することで、登場人物の状況や心情を考えやすくする。 ・それぞれの人物の立場や思いを明らかにすることで、2人のとるべき行動を考えるための見通しをもたせる。
つ か む	3 電車の中での出来事について振り返る。	○何が問題になっているだろう。 ・女性社員の電車での行為 ・主張できない私の態度 ・見ていただけのおばさん	・それぞれの登場人物の何が問題なのかを明確にする。 ・女性社員の行動に意見が偏らないように私の言動にも目を向けさせる。
	4 役割演技を通して、それぞれの立場となって考える。 【書く活動①】	○コーヒーがこぼれたとき、「私」と「女性」はどうすればよかっただろう。 ・迷惑行為だと注意する。 ・何も言わずによごれた部分を拭く。 ・自分も悪かったと謝る。	・個人で考えさせた後、数名の生徒に実演させる。演技終了後、演技を通して思ったことやその行動をした理由について発表させる。(T2:役割演技) 【補助発問】 ・「私」はなぜ「もっと早く足を引っこめればよかったんです…」と言っただろう。 ・強く注意をされると「女性」はどんな気持ちになるだろう。
広 げ る ・ 深 め る	5 望ましい社会を実現するために心がけることについて考える。 【書く活動②】 【対話活動①】 グループ ↓ 全体	◎みんなが安心して過ごせる社会をつくっていくために心がけることは何だろう。 ・自分の都合を優先せず、相手のことを思う気持ち。 ・相手に迷惑をかけたならきちんと謝ることが大切。 ・言うべきことはちゃんと伝えないといけない。	・思いやりの観点として、「相手のことを考えて行動する」という意見が予想される。他者を意識した集団としての思いやりや配慮が公德心を考えていくことにつながるという視点に気づかせる。 ・対話活動では意見を発表するだけで終わらないように【話し合いのポイント】を電子黒板に提示する。
	見 つ め 直 す	6 感想や対話活動を通して考えたこと、感じたことを振り返りシートにまとめる。	○自分が考えたことや感じたことを振り返りシートに書こう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分の都合だけを優先せず、他者に配慮し、公德心をもつことが、みんなが安心して過ごせる社会を実現する上で大切なことであることの理解を深める。</div>

3年()組()号

名前()

1 それぞれがどんな行動をとればよかったのだろう。
(実際の行動やセリフを考えよう)



2 よりよい社会をつくっていくために心がけなければいけないことは、どのようなことだろう。

A large, empty rounded rectangular box for writing answers to question 2.